

総合教育会議について（速報）

1 協議結果

センター方式、センター 1 カ所整備という実施方式（案）で、市長と教育委員の方向性が一致した。

2 実施方式について（発言の要旨）

（1）市長

- ①全校開始時期の差がなくて早期実施できるのはセンター方式で、1 カ所の給食センターを整備することだと考えている。
- ②全校一斉に実施できることは、公平であるという観点から、非常に重要なことであると考えている。
- ③できる限り費用を抑えたいと考えており、センター方式であれば国庫補助を活用できる可能性があること、初期整備費が最も安いわけではないが維持管理運営費は最も安く、長期的に見て費用を抑えることができると考えている。
- ④あらゆる手段を尽くして、早期に給食を提供でき、かつ、費用を抑えられるように努力していきたい。

（2）教育委員

ア 開始時期

- ①開始時期に差が出てくると中学校の給食開始を心待ちにされている保護者の方々にとって不公平感が出てくるのではないかと懸念している。
- ②市内一斉に給食を開始できれば、中学校では日課表や食物アレルギーなど様々な課題に対して、全校で一緒に考えて対応策を講じることができる。

イ 教育活動への影響

- ①児童生徒の教育活動に影響が出ないように、子どもたちを中核に据えて考えるとともに、調査結果、各検討組織からの意見、横須賀市の実情等を検討すると、センター方式が現状とれる実効性・現実性がある最善の方式と考える。
- ②現在、教員の働き方改革が議論されており、学校現場の負担がさらに大きくなる方式を選択することは大変難しいと考えている。
- ③センター方式であれば施設整備に係る教育活動への影響を最も抑えることができるし、食物アレルギー対応なども全校統一した形で行うことができる。

ウ 衛生管理

- ①センター方式でも1カ所と2カ所では事故が起きた際影響が及ぶ範囲が異なるので、リスクとその費用という点も考慮する必要がある。
- ②親子方式で、現在の小学校の老朽化した給食室で中学校分も調理することは、調理員にさらに負担をかけ、衛生面で危険である。

エ 食物アレルギー対応、食育

- ①センター方式で懸念されることについては、食育についても、食物アレルギー対応についても皆で知恵を出し合い工夫していくことが大事であると思う。
- ②食物アレルギーについて、センター方式では学校や児童とのつながりが遠くなるので、情報管理システムの構築・管理をしっかりと行う必要がある。
- ③食育について、現場の理解は不可欠であるので、各学校で核となる教員を選び、教育委員会と連携して力を入れていくことが必要となる。

- ④全中学校対象の献立コンクールなど、生徒が楽しいと思うことを行うのも良いと思う。携わる大人の工夫や生徒たちのアイデアを採用することにより、「望ましい昼食のあり方」を実現できるのではないかと考えている。

オ 全般

- ①温かい給食が、楽しい給食、おいしい給食の大前提であるが、センター方式でも運搬や盛り付け方法の工夫で、十分に温かい給食を食べられる。
- ②中学校完全給食実施等検討特別委員会から出された中間審査報告書に留意したが、センター方式であれば多くの観点で沿うことができる。

3 今後の中学校完全給食実施について（発言の要旨）

（1）市長

- ①早期実施に向けて、全部局一丸となって取り組んでいきたい。
- ②まず、具体的な事務としては用地の選定を行わなければならない。
- ③これまで実施方式について、様々な意見をいただいておりますが、その想いも分かるが、是非、子どもたちのためを思ってという目指すところは同じだと考えているので、ご理解いただきたい。
- ④早期に、より良い形で給食を実施できるよう、全力を尽くしていきたいと思うので、今後も皆様のご協力をお願いしたい。

（2）教育委員

- ①「望ましい昼食のあり方」を実現できるように取り組んでいきたい。
- ②具体的な運営面に関しても、新たな事業となるので学校現場は不安であると思う。学校現場から意見をしっかりと聴きながら、連携して様々な課題をひとつずつ解決し、前に進めていきたいと思っている。